

## レタス腐敗性病害の耕種的防除法

### 【1 成果概要】

耕種的防除法を導入することによって、レタス腐敗性病害（すそ枯病・軟腐病・腐敗病）を軽減させ、生産を安定させることができます。

耕種的防除法

株間を 24 cm から 30 cm に広げます。  
心土破碎や明渠施工など、圃場の排水対策をきちんと実施します。  
レタス残渣を圃場外に除去します。  
レタス栽培後の圃場にハイオーツを鋤き込みます。

### 【2 効果】

- 腐敗性病害が軽減され、出荷できる株の割合が向上します。
- 特に、多発年ほど効果が認められるので、年ごとの生産量の振れが少なくなり、安定的にレタスを生産することができます。
- 疎植化によって栽植本数は少なくなりますが、出荷できる株の割合が増えるため、出荷量は従来と同じ程度確保することができます。
- 定植苗数が減るため、自家育苗の場合でおよそ 5,000 円/10a、苗を購入する場合でおよそ 10,000 円/10a 程度コストを削減することができます。



滞水部分への明渠施工



レタス圃場にハイオーツ作付

### 【3 留意事項】

- 腐敗病の多発年では効果が見られなかったため、従来どおりの薬剤防除も併せて行ってください。
- レタス残渣を圃場外に除去するには、多くの労働力が必要となります。
- 本試験では排水対策として、サブソイラーを 60～90 cm 間隔、40～50 cm 深、圃場滞水部に幅 45 cm、深さ 80 cm の明渠を施工しています。

